

町民の英知集め新しい町づくりの全力尽くす

施政方針の内容

平成十五年度の町政の進む方向を決める、第一回町議会定例会が二月二十四日から三月十三日まで開かれ、十五年度の一般会計予算などが原案どおり可決されました。初日には、沼崎喜一町長が「町民の皆さまから知恵をいただきながら、新しい町づくりのために全身全霊を傾注する覚悟です」と第七次山田町総合発展計画の五つの柱を基本に、本年度の基本方針を述べました。今号では、施政方針の主な内容と十五年度予算の中身を紹介します。



施政方針を述べる沼崎喜一町長

昨年五月、宮古・下閉伊管内七市町長と宮古地方振興局長による宮古・下閉伊地域広域行政推進懇談会が設置されました。鋭意意見交換し、報告書「宮古・下閉伊地域の在るべき広域連携の姿について」をまとめました。町はこれを踏まえ、住民懇談会と産業別代表者懇談会を開いたほか、各種集会などを通じ町民世論の動向の把握に努めてきました。私は二月五日の町議会全員協議会で、山田町の合併問題は将来の課題としつつも、合併特例法の期限である平成十七年三月までの合併に賛成する意見は少数と判断し、国が目標とする千の自治体の一つに残るよう自立の道を選ぶことを表明しました。厳しい行財政環境の中、自立の道が平坦なものであるとは考えていません。町民の皆さまから知恵をいただきながら、新しい町づくりのため全身全霊を傾注する覚悟であります。

町政を取り巻く情勢ですが、国は「日本経済の再生は聖域なき構造改革を迅速かつ着実に推進する以外にない」と

の基本的な考え方を堅持し、経済活性化に向け構造改革を総合的に行うとしています。本町の情勢を見ますと、デフレによる魚価低迷や秋サケの不漁傾向が続くなど、水産業を取り巻く環境は厳しい状況です。また農業も農産物の輸入増加で経営規模の拡大ができないなど、農業離れが進んでいます。

八月には、待望の三陸縦貫自動車道山田道路が開通しました。これで国道45号の活用を可能にし、「山田の魅力発信事業」の定着に向け内容が充実されました。また、九月の内閣改造に伴い鈴木俊一衆議院議員が環境大臣に就任されました。町民一同、大臣の新たな活躍を期待するものであります。

平成十四年度的主要事業の推進状況は、下水道関連で大沢が川向地区、船越は長林、山の内、日向脇地区、田の浜は早川地区が使用開始となりました。柳沢北浜地区土地地区画整理事業も道路や水路などの築造整備が進められ、柳沢町営住宅建替事業は二棟目が十五年度に完成します。さらに山田中学校の改築工事は屋内運動場の完成に伴い、三年計画で行われてきた整備が完了し、生徒たちの教育環境も充実されました。厳しさを増す財政状況ですが、第七次総合発展計画の事業推進を重点に、差し迫る課題を的確にとらえ、町政執行に果敢に取り組んでいかなければなりません。以下、総合発展計画に掲げる領域に従い、平成十五年度の施策を述べてまいります。